

箱 根 庭 園

第 2 回サラトガの日本庭園支援報告書

サラトガ市 (アメリカ・カリフォルニア州)

2011. 03.

小形会

はじめに

このたび、2回目となる箱根庭園の技術支援を3月7日から16日の日程で実施いたしました。

今回の支援は、正面入口にある大変立派な正門前の整理、すなわち前庭を見映え良くしてほしいという要望に応えるかたちで行いました。

この支援プロジェクトに参加した総勢9人の方々には、大変忙しい中、ボランティアで参加していただき感謝にたえません。

現地では、前回同様に庭園委員会メンバー及び会員の自宅に滞在させて頂き、温かいもてなしを受けました。参加された方は心に残るいい思い出になったと思います。

支援内容は、正門前のアプローチ脇の造園工事と四ツ目垣作製及び剪定講習でした。造園工事では中央階段脇の両側それぞれに石積みを配して変化をつけ、左右対の2本のセンペルセコイアの大木の根元も石積みで囲いました。2基の春日燈籠も移動し、子供たちが近寄らないように四ツ目垣で囲い、グランドカバーとしてフッキ草を植付けました（フッキ草は私たちが帰国後、現地のガーデナーにより植付けられました）。

また、前回の工事で改修した茶庭に塵穴を設置し、内露地、外露地の仕切りもつけてほしいとの要望もあり、四ツ目垣で仕切り二重露地に改修し対応いたしました。

後半の講習では近在のガーデナーを迎え、モミジの剪定・露地仕切りの四ツ目垣等の庭園技術の講習を行い、現地ガーデナーとの交流等も行いました。

この間、東日本大震災があり、遠い地より日本を想い大変心配させられました。現地では全員がケガなく楽しい作業をさせて頂きましたし、自信を持ってお見せできる庭園景が完成したと思います。

今後、このような企画がありましたら、是非、会員の皆様に協力して頂きたく思います。

最後になりますが、現地の庭園委員会の方々、多くの会員の皆様に大変お世話になりました。今回、技術支援のボランティアで参加した頂いた小形会メンバーにも深く感謝いたします。

小形会 理事
星野 司朗

I. 箱根庭園支援の基本的な考え方

箱根庭園の整備修復や維持管理などの実践及び考え方や手法については、庭園が保持している歴史的文化的価値を損なわないように配慮しながら、箱根庭園マスタープラン(2006)に準じて行うものである。また、実務については現地技術者と協働しながら行う。

次に、どこをどのような考えでだれがいつ行ったかについてはその詳細を記録して残す。

具体的には、施工場所・設計プラン・庭園材料・施工日数・施工費用を決め、さらなる現地人専門家の派遣の必要性や、日本からの専門的支援や、庭園技術や工法についても、**庭園委員会**(アドバイザー委員会)が専門家を交えて議論を交わして問題を探り内容を理解するなどして、最終的に承認を行う。これを受けて支援作業に入る。

1. 現地庭園維持管理技術者の技術向上を支援

日米の庭園技術者同士が意見交換などをして、相互における日本庭園の地域性からくる形・技術・利用・考え方の違いや庭園の持つ特質的な価値を明らかにしつつ時代や国を超えた日本幅広い庭園理解を得ることを目的としている。

具体的には、箱根庭園での維持管理の技術トレーニングを積極的に行い、これによって管理に関する考え方や方法、技術力、日本庭園に対する理解など箱根庭園の維持管理に関わる総合的な質を向上させる。

2. 庭園を通じた国際交流

海外にはこれまで多くの日本庭園がつくられてきた。その目的の一つは日本における伝統形式の日本庭園を移植し、その美しさと日本が持っている文化性伝統性を、庭園を通して紹介することであった。自明なことだが文化や伝統は人々を介して長い時間をかけて継承されてきた。海外の日本庭園でも、庭園の形や美しさの維持にはそれなりの技術を保持した技術者、現地技術者との交流やアドバイス、技術支援は有効であろう。この交流によって両者がそれぞれ異なる環境化での日本庭園の保持継承がどのように行われるべきかを考えるきっかけとなり、国を超えて両者に共通する課題や問題点の解決として大きなチャンスとなる。

3. 日本人若手造園家の庭園技術のトレーニング

庭園づくりを志す、若手技術者には日本庭園の修復・整備は技術を学ぶまたとない機会である。小形会ではベテラン技術者の指導の下、中堅技術者とチームを組んで、直接技術を得ることができる。

昨今、忘れがちな伝統技術を直接習うことにより、歴史的経緯の中で日本庭園が培ってきた形、思想、人、時代、庭園理論にまで触れることができる。

次世代に継げていかなければならない伝統的庭園技術は、海外日本庭園の支援で多くのことを学ぶことができるのである。

II. 全体を通じて思うこと

1. 技術支援全体の印象

このたびの支援は、昨年が続いて2回目ということもあり、ジェイコブ以下2人の現地技術者と我々それぞれにお互いの名前や気質もある程度力が解っていたので、チームワークはなかなかよかったと思う。ただ庭園の改修では、お互いに少し遠慮もありお手伝いをしているところで終わっているようなところもあり、もう一步踏み込んできてもらいたかった。

今後、数回支援を重ねることで、更に技術力向上に支援したい。管理技術のデモンストラーションでは現地技術者も作業班の中に入ってもらい、共に実践を行うことができた。

2. 国際交流の観点から

箱根庭園支援というかたちで、アメリカ・サラトガの地で多くの人々と出会うことができた。そのなかで、箱根庭園を守っている現地技術者や箱根庭園を支援する方々と接するうちに、庭園そのものに加えて日本文化に対する高い評価や愛着があると感じた。

ただ単に日本庭園を守るということだけではなく、日本文化を愛する心に気付いた。その思いがあるからこそ箱根庭園をこれまで維持することが出来ているのではないかと。

我々は、日本文化の一つである日本庭園に関わる職業に就いており、その日本文化を継承していく役割も担っているということを再認識させられた今回の支援であった。

3. 日本人若手造園家トレーニングの観点から

我々は、日本国内各地でそれぞれに造園という仕事をしている。経営面を優先する現在では、昔のように職人の伝統技術を日々の仕事で学ぶことが出来ない現状にある。

このようななかで、アメリカの箱根庭園支援で全国各地から集まり、庭園技術を持つ経験豊富な先輩方の仕事に触れることができ、また、指導してもらう機会を得られたことは、大変貴重なことであった。

Ⅲ. 支援の内容

箱根庭園に到着後、ただちに庭園関係者との打ち合わせに入り、小形会のメンバー紹介をしたのちに今回の庭園改修及び剪定のデモンストレーションなどについて、内容の打ち合わせに入った。

その結果、事前に予定していた①正門前の改修及び②剪定と③四ツ目垣のデモンストレーションを行うことを Garden Committee（庭園委員会）と確認した。

加えて茶庭利用者からの要望（二重露地や塵穴、茶庭内の飛び石の据え替えなど）にも答えることとした。

①正門周辺の景の改修

工種： 灯籠の移設と石積み、四ツ目垣及び植栽による周辺の修景

場所： 正門前東側（本庭園外）

技術者： 星野司郎（全体監理、団長、理事）、佐々木康（理事）、永井良（理事）、森博保、井手浩、小銭英泰、高田武司、竹本亮太郎

改修理由： 第一に箱根庭園からの要望があり写真などで精査したところ、2基の春日灯籠と門とのバランスや映りが悪く、修景を目的とした庭園改造の必要性があった。

修景要素として伝統工法の野面石積みを主体に景の引き締めを目的とし、2基の春日灯籠は門前から参道中央部に移設、その周りを四ツ目垣で囲い、庭園景を作ると同時に安全面にも配慮する構成とした。門前にはアジサイ、参道両側にはフッキソウを植え、趣のある雰囲気づくりを目標にした。

ステップ1－1日目－（3/8）

現場を確認した後、庭石販売店を数箇所廻って石材探しを行ったが、なかなか希望する大きさの石が見つからず頭を悩ませたが、程よい石を見つけて材料選びを完了。

ステップ2－2日目－（3/9）

既存の春日灯籠の基礎コンクリートの撤去（事前に灯籠は解体、所定の場所に移動済み）を行ったが、それは現地の設計基準に沿ったかなり大型のものであった。

続いて、石積みの位置、高さを十分に検討し、床掘りに取りかかった。しばらくして石材が到着し、いよいよ石積み作業が始まった。

ステップ3－3日目－（3/10）

前日に引き続き、2班に分かれて正門の左右の石積み作業を同時にスタートした。またそれと並行して、春日灯籠の移設場所の床掘りも行い、灯籠のコンクリート基礎の据え付け作業を進めた。また、茶庭内に新設する塵穴の製作も行った。

ステップ4-4日目- (3/11)

石積みも3日目に入り全体の形が見えてきた。追加の石材も到着し、いよいよ大詰めに入る。また、2基ある春日灯籠のうち1基の組み立て設置も並行して始めた。

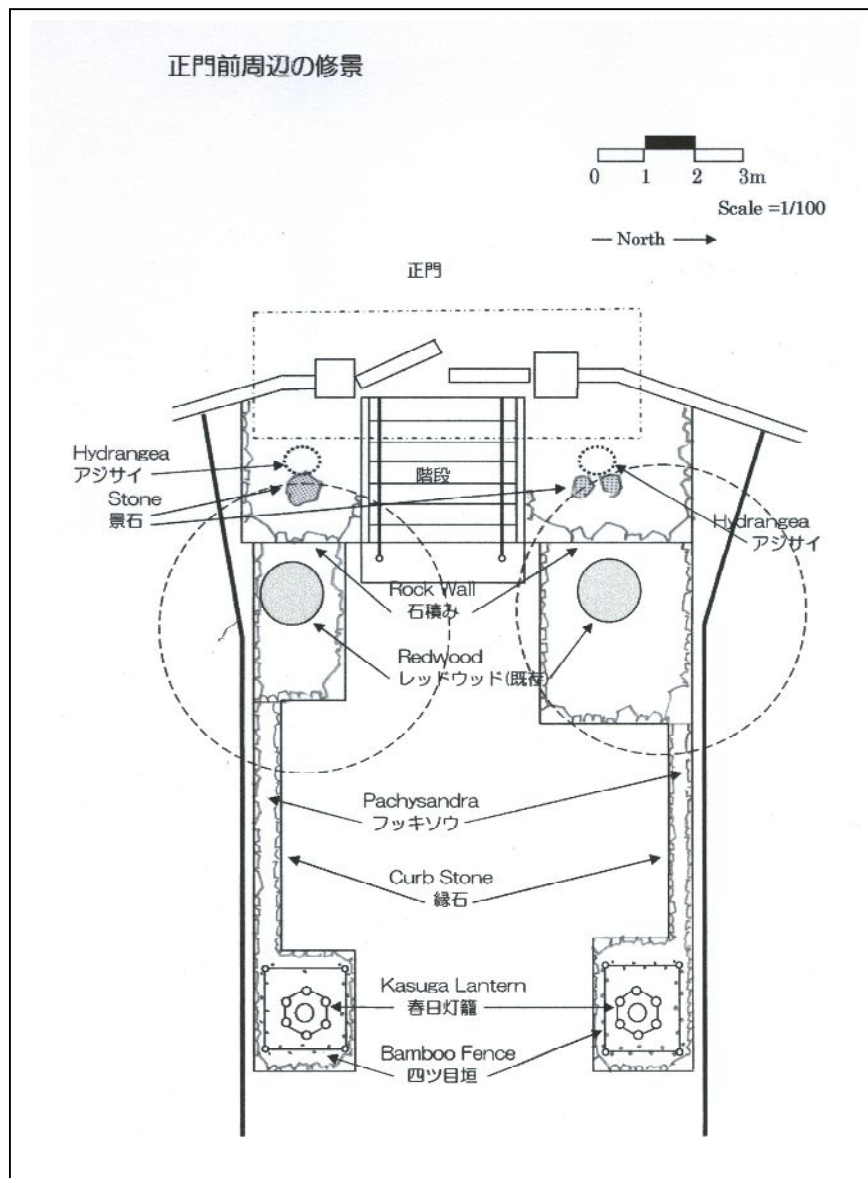
ステップ5-5日目- (3/12)

2基の春日灯籠の設置を細心の注意を払いながら慎重に行った。

その後、灯籠の足元を囲む縁石の据え付けを完了し、全体の整地を行った。最後に縁石に添って設置する四ツ目垣の作製にも取り掛かるが、翌日のデモンストレーションのため胴縁の取り付けまでとした。

ステップ6-6日目- (3/13)

四ツ目垣立ての子の棕櫚縄結束を行い、デモンストレーションを終えた。



作業中写真

作業中写真

作業中写真

完成写真

完成写

②剪定と四ツ目垣のデモンストレーション

工種：剪定と四ツ目垣のデモンストレーション

場所：庭園内、正門前（庭園外）

技術者：星野司郎、佐々木康、永井良、森博保、井手浩、小銭英泰、高田武司、
竹本亮太郎

改修理由：春日灯籠の周りを四ツ目垣で囲い、庭園景を作ると同時に安全面にも配慮した構成とした。

A. 剪定のデモンストレーション

1. モミジ (*Acer Palmatum*) 類の剪定デモンストレーション

星野氏の説明に従い、佐々木氏、森氏、高田氏がそれぞれ木に登って、大きな枝から中枝、小枝の順に枝抜きを行い、上から剪定し徐々に下がっていくやり方でデモンストレーションを行った。

写真

2. マツ (*Caltha palustris*) の剪定デモンストレーション

星野氏の指導のもと、集まってくれた現地の庭園管理技術者と剪定実習を行った。

実例として 20 分ばかり実技を行い、その後、同じ方法で小枝、新芽、古葉を落として全体を整えるという内容であった。

写真

3. サワラ (*Chamaecyparis pisifera*) の剪定デモンストレーション

現地庭園技術者が剪定実習を行った。
この種は得意のようすで進んで剪定を行い、それを評価するというやり方だった。要は中枝を抜き、外枝の輪郭を整えること、どのくらい落とすかは自身でその場を考えて判断するなどを助言した。

写真

B. 四ツ目垣作製のデモンストレーション

永井氏指導のもと、現地庭園管理技術者の皆さんが四ツ目垣立て子の結束の実習を行った。

男結びは大変なように見えたが手際よく、そう時間をかけずに修得した。

結び目の位置を変えるなどを指導した。

初めての方が多く大変興味があった。

写真

③四ツ目垣の作製、塵穴の設置、飛石の据え替え（茶庭）

工種：四ツ目垣の作成、塵穴の設置及びその周辺の修景

場所：茶庭内

技術者：星野司郎、森博保、高田武司、井手浩

改修理由：茶庭利用者からの要望で内露地・外露地で茶事を行いたいとのことで四ツ目垣で結界を施した。

四ツ目垣は結界の意味、これで二重露地形式を整えた。麗穴も茶庭利用者からの要望で丸穴形とした。

ステップ1－1日目－ (3/12)

茶庭内に四ツ目垣の作製を行う
飛石を中心に左右に振り分けるように四ツ目垣を作製。

写真

ステップ2－2日目－ (3/13)

茶室入口附止めに塵穴の設置を行う。

IV. ビデオ記録とインタビュー

箱根庭園の庭園委員会は、改修工事の全容を記録するため、各所の施工風景をビデオ撮影した。

当日、星野団長をはじめとする数人にインタビューも行われ、その様子は全て同じくビデオに記録された。

庭園技術を論理的に説明することは、用と景の視点が複雑に入り混じるため大変難しいことである。しかも突然のインタビューにもかかわらず、こきみよく数々の質問に答え、更に庭園の解説や日本庭園の特徴などもそれぞれに記録された。

現場では、理論論拠は技術に置き換わるが、ここでは技術を理論にもう一度置き換え直してのチャレンジだ。

若い人には是非試してみてほしい体験である。技術は理論的に、理論は技術に置き換えて考える習慣がほしいものです。

インタビュー写真

編集後記

箱根庭園の技術支援を終えて感じたことは、海外にも日本に興味を持ち、その技術を学びたいと考えている人たちが大勢いるということ。そして、庭園に携わる日本庭園はまちがいなし日本文化の一つであり、その文化を継承していく役割を担っているということでした。

そのためには、もっと多くのことを学び、多くの経験を積んで伝承して行かなければ、ならないということです。

このような事を考えることただひたすら与えられた作業をこなすということでしたが、海外に出てみてはじめて、造園という仕事をしていく中での突極的な目的や大切なものは何かを考えさせられた気がします。

小形会の活動に、参加させていただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。

井出 浩

○日程 3月 7日～3月16日(17日・日本)

- 3月 7日 成田発ーサンフランシスコへ
- 3月 7日 サンフランシスコ着、サラトガ箱根庭園にて支援内容の打ち合わせ及び材料選び
- 3月 8日 終日作業
- 3月 9日 終日作業
- 3月10日 終日作業
- 3月11日 終日作業
- 3月12日 終日作業終了後、理事会主催のパーティが行われ小形会メンバーの紹介を受ける。大勢のホストが参加
- 3月13日 サンフランシスコ近郊の観光
- 3月14日 サンフランシスコ近郊の造園研修
- 3月15日 サンフランシスコ発ー成田へ
- 3月16日 成田着、解散

○参加者 9名

- | | |
|----------------------------|---------------|
| 1. 星野 司郎 (東京) (全体監理、団長、理事) | 6. 小銭 英泰 (岡山) |
| 2. 佐々木康 (東京) (理事) | 7. 高田 武司 (茨城) |
| 3. 永井 良 (東京) (理事) | 8. 竹本亮太郎 (埼玉) |
| 4. 森 博保 (徳島) | 9. 井手 浩 (福岡) |
| 5. 土沼 隆雄 (新潟) | |

◎報告書作成 小形会 2011.05.17